

2023 年度 大学行政管理学会 研究会・研究グループ活動 報告書

研究会等名称 (設置地区)	ファシリティマネジメント研究会 (関東地区)
活動目的	「ファシリティマネジメント」の考え方を基本に、そのスキルの研究活動を行うことによって、当該分野に関する研究水準の向上を図り、もって大学における実践の普及を目指すとともに、ひいてはこれらを担う人材育成に寄与することを目的とする。
参加資格・条件	大学における「ファシリティマネジメント」に関連する業務に従事・関係する方をはじめ、この分野に興味や関心を持って賛同する方々。
活動状況 ①開催ペース (毎月1回, 第何曜日など) ②主たる開催場所 ③主な活動経過 ④現在の活動状況 ・研究テーマ等	<p>① 開催ペース：不定期</p> <p>② 主たる開催場所：大学キャンパスおよび広くファシリティに関連する施設</p> <p>③ 主な活動経過 2006年9月発足。従来の施設管理にとどまらない“学び”や“安全”“コスト”“環境”“コミュニティとの関わり”などの観点からキャンパスのあり方について広く意見を交換している。主に関東地区を中心に現在までに63回開催。2010年『キャンパス再生のすすめ—これだけは知っておきたいキャンパスFM—』を出版。2011年から公益社団法人日本ファシリティマネジメント協会(JFMA)のキャンパス研究部会との共同研究を開始。2012年には京都(立命館大学)、広島(広島大学)で研究会を開催。2013年は学事研究会との共同開催(千葉大学のラーニングコモンズ)。2015年には、「秋の夜学校」と題し、特別講演会を開催。これまでに産官学、地域、分野を横断した研究活動を行っている。開催に際しては、施設に絞った話題のほか、教学系など施設系以外に従事している職員が参加しやすいようなテーマも勘案しながら運営を行っている。</p> <p>④ 現在の活動状況・研究テーマ等 2022年度の活動計画を「with コロナという状況下で after コロナをも見据え、授業形態の変化や求められる環境などについての調査・研究を進める。大学や研究機関のみならず、広くファシリティに関連する企業などの知見や取り組みに触れ、学生視点に立った大学ファシリティの「現在」および「未来」のあり方を探る。」とし、続く2023年度は、活動計画を「施設・設備に限定するのではなく、ファシリティマネジメントを広く「学生視点に立ったキャンパス環境整備」と捉え、調査・研究を進める。実際にファシリティを見て、触れる機会を持つために現場主義を採り、その有効なマネジメントのために部署横断的な意見交換を図ることを旨とする。」とした。 単に施設設備に限定するのではなく、広く学生のための環境整備を大学におけるFMと捉え、2022年度は7月から11月までで3度、2023年度は5月と6月に1度ずつ、計5回の研究会を実施した。 本研究会は「現場を見て、感じる」ことを重視していることから、実際に各大学のキャンパス訪問し、諸施設をFMの観点をもって見学した上で、キャンパスFMに関しての意見を交換する機会を設けている。活動計画に沿った内容とともに、有意義なFMを考えるため、施設担当部署以外の職員の方も興味を持って参加したいと思って頂けるようなテーマ設定や企画を心掛けている。</p>
その他	